

[成果情報名]アルファルファの県奨励品種候補「ネオタチワカバ」の特性

[要約]アルファルファ品種「ネオタチワカバ」は、他の市販品種「ケレス」より収量性に優れる。そばかす病抵抗性はやや劣るが、倒伏耐性は同程度で、永続性にやや優れる。中間地から高冷地の採草利用に適する。

[担当] 山梨県畜産酪農技術センター・草地環境科・望月 栞

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

畜産課、西部家畜保健衛生所

[背景・ねらい]

飼料価格と肥料価格の高騰から、蛋白含量が高く窒素固定による肥料散布量の削減が期待されるマメ科牧草の再評価が必要とされている。アルファルファは採食性や泌乳効果に優れるマメ科植物であるが、本県では現在奨励品種は指定されていない。そこで、本州以南で販売されている「ネオタチワカバ」と「ケレス」を供試して、本県の気候に適する優良品種の選定を行い、県奨励品種指定の基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「ネオタチワカバ」の利用1～3年目の年間乾物収量および3年間の合計乾物収量は「ケレス」より優れ、3年間の合計乾物収量の「ケレス」比は113である(表1)。
2. 「ネオタチワカバ」の葉枯性病害とモザイク病の抵抗性は「ケレス」と同程度であるが、そばかす病の抵抗性は「ケレス」よりやや劣る(表2)。
3. 「ネオタチワカバ」の倒伏程度は、「ケレス」と同程度である(表3)。
4. 3年目の最終刈取後の被度は「ケレス」よりやや高いため、永続性にやや優れる(表3)。

[成果の活用上の注意]

1. 栽培適地は中間地から高冷地で、採草利用に適する。
2. アルファルファタコゾウムシが早春に大量発生すると、生育段階のアルファルファの新芽を食べ尽くし、大きな被害となる。アルファルファタコゾウムシの防除には、早期のスミチオン乳液の散布が効果的である。
3. 降雨や強風により倒伏しやすいため、1番草は刈取り適期である開花始めまでに刈取りを行い、2番草以降は刈遅れのないように注意する。
4. 播種の際には根粒菌の接種、またはコート種子を用いる。カルシウムの吸収量が多いため、毎年最終刈取後に苦土石灰を散布する。

[期待される効果]

本県の気象や立地、土壌条件等に適した品種を利用することで、単収の増加や安定生産が可能となり、自給飼料生産量の増加による購入飼料の削減が図られる。また、マメ科牧草のため窒素固定による化学肥料散布量の削減が図られる。

[具体的データ]

表1 収量性(2015～2017年)

品種名	乾物収量(kg/a)				同左収量比
	1年目	2年目	3年目	3年間合計	
ネオタチワカバ	275	241 ^a	206 ^a	721	(113)
ケレス	246	225 ^b	167 ^b	638	(100)
CV%	7.0	0.6	4.1	3.6	

縦列の異符号間で有意差あり(a,b: p<0.05、Tukey-Kramer法による多重検定)

表2 病害罹病程度(2015～2017年 3年間平均)

品種名	病害罹病程度 ¹⁾		
	葉枯性病害	そばかす病	モザイク病
ネオタチワカバ	2.3	2.9	2.1
ケレス	2.3	2.3	2.0
CV%	0.0	9.5	6.0

1)1:無または極微～9:甚

縦列の異符号間で有意差あり(a,b: p<0.05、Tukey-Kramer法による多重検定)

表3 倒伏程度および3年目最終刈取後の被度(2015～2017年)

品種名	倒伏程度 ¹⁾			3年目 最終 刈取後の被度 ²⁾
	1年目	2年目	3年目	
ネオタチワカバ	4.5	6.5	4.4	89.0
ケレス	4.3	6.7	4.6	86.7
CV%	6.5	6.1	2.4	0.7

1)1:無または極微～9:甚

2)畦が10cm以上裸地となった部分を概略積算(%)し100から差し引いた値

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定普及促進事業

予算区分：委託

研究期間：2015～2017年度

研究担当者：望月 栞、角田 真由美、遠藤 美杉、保倉 勝己